

I C T 学習教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森若葉養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 / 家庭 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習（探究）の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 ■自立活動 <b>■</b> その他（学校生活全体）		
	単元(題材)名	自分の考えを伝えよう		
	単元(題材)の目標	報告・相談・連絡や自分の考え、意見を自分なりの方法で相手に伝えることができる。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	3 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	<p>場面緘黙の疑いがあり、発話でのやりとりが難しいが内言語は豊富である。会話経験の少なさから見られる文章表現の乏しさや間違えたくないという気持ちを強く抱くことによる消極的な行動、対人関係の苦手さにより精神的な緊張が強いなどが相まって見られる。決められた台詞や挨拶、「はい。」の返答は発話で応じることができるが、声量の弱さや明瞭な曖昧さが見られ、聞き取ることが難しい。書字は文字の形への強いこだわりにより、1文字1分以上かかる場合が見られるほど時間を要する。ワーキングメモリに弱さがある。表出方法の確立に加えて様々な視点から支援が必要である。</p>		
I C T 活用について	使用した支援機器・教材の名称	iPad		
	使用したアプリケーションの名称	メモ帳、Google ドキュメント、 Google スライド、Keynote、 読み上げ機能		
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 (■意思伝達支援 <input type="checkbox"/> 遠隔コミュニケーション支援) <input type="checkbox"/> 活動支援 (□情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input type="checkbox"/> 学習支援 (□教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援) <input type="checkbox"/> 実態把握支援		
I C T 活用のねらい	<p>①発話によらない円滑なコミュニケーション方法として、文字入力による意思表出をねらった。書字を目的としない授業に関してはワークシートをタブレットの文字入力で見入できるようにした。</p> <p>②自分がどこまで話したかが分からなくならないようにするため、話す内容が決まっている原稿等の場合はスライドアプリを用いて、話す内容がタブレット上で見られる、かつ、話す順番で原稿スライドを表示できるようにした。</p>			
活用の状況と支援	<p>①発話や書字よりも時間がかからずに相手とコミュニケーションを行うことはできている。しかし、発問内容に自由度が高い場合は、どのような方法でも意思を表出する姿が乏しいため、語彙数や表現技法の増加も併せて実施する必要がある。</p> <p>②日常生活の様子に大きく変化は見られないが、タブレット等の原稿を用意した発表場面では、相手に伝えることの意識付けが図れたようで、相手が聞き取れる声で発表することができてきている。そういう場を積極的に増やししながら支援を講じたことで、昨年度よりも相手が聞き取れる声で話す場面や発話による朝の会等の司会ができるようになった場面など、発話に関する場を拡げることができた。</p>			